

平成30年5月15日

報道機関 各位

第8回「人文知」コレギウム
—迷宮のなかに秩序と規範を求めて—

富山大学人文学部は、学部教員による研究会「人文知」コレギウムを定期的で開催しております。富山県の「人文知」の拠点として、人文研究のさらなる高みを目指して、様々な分野の教員が集い、相互に研究交流を図ります（※「コレギウム」は「仲間たちの集い」という意味）。

来る6月20日（水）はその第8回目となります。テーマは、「迷宮のなかに秩序と規範を求めて」です。発表は、「連続体の迷宮」とは何か—ライプニッツとパスカールが挑んだ哲学最大の難問—（池田真治 [哲学・准教授]）、「ルールとは何か—行為規範の規範性を、論理的強制力として描き出す—」（佐藤裕 [社会学・教授]）です（詳細については、別添チラシをご参照ください）。

本研究会は、一般の方や学生の聴講も可能です（無料・事前申込不要、ただし、ウェブでの申し込みも <http://www.diversitylounge.jp/collegium/postmail.html>）。当日の取材・報道方、よろしくお取り計らい願います。

【本件に関する問い合わせ先】
富山大学 人文学部総務課
TEL. 076-445-6131

一般の方の聴講可・
事前申し込み不要・無料



Ole Worm's cabinet of curiosities, from Museum Wormianum, 1655
Original source from: Smithsonian Institute Libraries

富山大学人文学部富山循環型「人文知」研究プロジェクト公開研究交流会

第8回「人文知」コレgium

2018年6月20日(水) 13:30~15:30

富山大学人文学部1階大会議室

迷宮のなかに秩序と規範を求めて

「連続体の迷宮」とは何か—ライプニッツとパースが挑んだ
哲学最大の難問—

池田真治 (哲学・准教授) 13:30~14:30

いかにして線は点から構成されるのか。あるいは、いかにして物体は原子や粒子から合成されるのか。はたまた、いかにして現在の宇宙は法則と秩序をもつ世界になったのか。哲学がこの問題とどのように対決してきたのか、ライプニッツとパースの思想を紹介します。

ルールとは何か—行為規範の規範性を、論理的強制力
として描き出す—

佐藤 裕 (社会学・教授) 14:30~15:30

ルールはなぜ強制力を持つのか。これはルール(規範)についての最も根源的な問いだといえるでしょう。今回の発表は、この問いに対して、R. ブランドムの推論の言語ゲームというアイデアを足がかりにして挑戦してみようと思います。